

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	そくしん渡波（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19世帯	(回答者数) 18世帯
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩な外出活動やイベント、クッキング等のプログラムを豊富に提供している。イベントと同時開催の保護者会など、家族・きょうだい参加型の行事も好評を得ている。	季節の行事と保護者会を同時開催し、多くの保護者が気軽に参加し交流できる場を設けている。子どもに人気の企画に加え、新しいプログラムも適宜取り入れている。	独自イベントだけでなく、地域で参加できるイベントにも積極的に参加できるよう検討していきたい。保護者参加型やきょうだい向けイベントの開催情報を、年間計画等で早期に周知できるよう努める。
2	柔軟な空間活用と特性に応じた環境整備に力を入れてきた。児童の人数や特性に合わせ、園庭などを柔軟に活用している。あえて予定を見せずこだわりを防ぐ工夫や、入室禁止場所の明示、個別空間の設置など、児童が落ち着ける構造化された環境づくりをしている。	予定を見せずこだわり行動を防ぎ、入室禁止エリアを明確化する工夫を行ってきた。カーテンでの個別空間設置や、人数に合わせ活動空間を使い分けるなど、児童が落ち着ける構造化された環境づくりへの意識を持って取り組んでいる。	おもちゃの配置や予定の伝え方をさらに分かりやすくする工夫や、共有スペースをより適切に使い分けられるよう工夫を重ねることが今後の取り組みとして挙げられる。
3	毎月手作りの通信「ぐっどふれんど」で定期的な活動報告を発信する他、ホームページでも定期的に活動の様子を配信し、的確な情報発信に努めている。	「ぐっどふれんど」では写真を使って活動の様子を分かりやすく伝えている。また、電子ツールを活用し、保護者や関係機関と円滑な情報共有と相互理解に努めている。	通信等を通じて、子どもたちが成長したと感じる場面や、保護者の温かな願いを日々の支援に活かしている様子を発信し、支援の質の向上と保護者との連携強化に繋げたいと考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	公園や地域の児童館などでの関わりはあるものの、放課後児童クラブとの交流機会が課題となっている。また、地域住民を招く機会が少なく、より地域に開かれたイベントの計画や、その際の安全確保の工夫が課題とされている。	カフェ等の行事で声かけは行うものの、地域住民を広く招くイベント企画における安全確保の難しさが要因。また、放課後児童クラブとの交流に向けた具体的な検討が不足しているのかもしれない。	放課後児童クラブとの交流の機会を模索し、カフェ等のイベントでは安全を確保する対策を取りつつ、地域住民をより多く招くための工夫を行うことが挙げられる。
2	保護者会などで出た有益な意見や内容について、当日出席できなかった保護者への伝達と情報共有が不十分な時もある。	季節の行事と保護者会を同時開催するなどして参加者は増えたものの、都合により欠席した保護者に対しても、当日の話し合いの内容や意見を適切にフィードバックする体制が不足していると思われる。	欠席された保護者へも、通信や連絡ツール等を通じて当日の保護者会の内容を共有する仕組みをより十分整えていく必要がある。日頃から保護者のニーズに敏感な支援体制を保ち、サービス向上に繋げていきたい。
3	洗面所等共有スペースの適切な利用誘導や、おもちゃの除菌などのより細やかな環境・衛生管理のさらなる徹底に取り組む必要がある。	毎日の清掃や空間除菌は徹底しているが、忙しい時間帯での細かなおもちゃの除菌や、洗面所を個別空間のように使ってしまう児童へのふさわしい部屋への誘導などが手薄になってしまうなどの要因が挙げられる。	おもちゃの除菌など衛生管理をより細やかに進める体制作りや、共有スペースや洗面所の使い方についての指導など、環境整備に加えて忙しい時間帯の見守り体制を工夫していきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 そくしん渡波（放課後等デイサービス）

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数 21名（2026年 3月 1日現在）

回収数 20

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1				
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19			1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18				2	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	16	1			3	

保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19			1	大変助かります。	今後もご家族の支援に役立つ視点で寄り添いながら情報を発信していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	20					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20					
	非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20				
24		事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20				事業所内での訓練だけでなく保護者への引き渡しまでも想定した訓練は継続していただきたいと思います。	今後も継続的に「引き渡し訓練」を実施していきます。保護者の皆さまのご協力に感謝いたします。
25		事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20					
26		事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19		1		そもそも大きな事故・ケガが発生しない様をごとく下さっていると思うので、急ぐ連絡はいただいていないと思います。	引き続き、緊急連絡体制をしっかりと整備し、安心してサービスをご利用いただけるよう努めていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20				体制は整っているだろうという安心はあります。	これからも、子どもたちの安心できる職員体制や設備の維持に取り組んでいきたいと思っています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19		1		とても喜んで通所しています。毎日常の日はどこに行くのか確認され、そくしんだという「イエーイ★」と言って喜んでいきます。	子どもたちがいつも楽しくのびのびと活動できるよう工夫を重ねていきたいと思っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		そくしん渡波			公表日		2026年 3月 31日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		児童数や特性に合わせて2階や中庭等を柔軟に活用し、クラス分けを行うなど活動空間を工夫している。	情報共有をよりスムーズにし、さらに活動の質を高めていけるよう努めます。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	13		基準以上の職員配置を心掛け、利用人数が多い日には適宜職員を増員するなど手厚い支援体制を整えている。	忙しい時間帯も、より手厚く見守れる体制の検討も意識します。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13		予定をあえて見せず固執を防ぐ工夫や個人棚の設置、立入禁止区域の明確化など、環境を整えている。	おもちゃの配置や予定の伝え方を、さらに分かりやすく工夫します。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		清掃や除菌、加湿器の点検等を徹底し、清潔で心地よい環境づくりと空間の使い分けをしっかりと行っている。	おもちゃの除菌など、衛生管理をより細やかに進めていければと思います。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		階数や中庭の使い分け、カーテンによる個別空間の設置など、児童の特性に応じた落ち着いた環境を用意している。	共有スペースをより適切に使い分けられるよう、工夫を重ねます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13		毎日業務時間内に振り返りを行い、スタッフ間で率直な意見交換をして継続的なサービスの改善に繋げている。	皆でじっくり話し合える振り返りの時間を、大切に確保しましょう。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		定期的な面談や交流を通じ保護者の意向を把握し、得られた情報を職員間で共有して業務改善に反映している。	保護者様の温かな願いを、より具体的に日々の支援へ活かします。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		研修や会議で職員が気軽に意見を出せる環境を作り、職員の提案を積極的に受け入れて改善に活かしている。	職員一人ひとりが、より生き生きと意見を出せる場を作ります。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	-	-	第三者評価は行っておりません。	検討中です。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		日程調整を行い外部・内部研修に積極的に参加。職員の資質向上を図り、学んだ内容を現場で共有している。	職員からの積極的な研修の提案を、これからも柔軟に取り入れていきます。		
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		支援プログラムを分かりやすく書面やHPで公表し、職員もプログラムを意識して日々の療育に当たっている。	日々の療育の中で、支援プログラムをより意識して取り組みます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13		アセスメントシートで児童のニーズを的確に分析し、個別の課題に合わせた支援内容を丁寧に検討している。	お子様の課題をより細かく分析し、最適なサポートを目指します。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		個別支援計画の原案は会議で検討し、各スタッフの観察結果を児発管が汲み上げ、共通理解を深めている。	利用日の少ないお子様の様子も、より丁寧に把握していくよう努めます。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		電子ツールを改善して計画を円滑に共有し、最新情報を取り入れながら提供サービスの質を常に検討している。	計画への理解を深め、デジタルツールの活用も楽しく習得していきたいと思っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13		専用ソフトで児童の様子を詳細に記録・共有し、スタッフ間での話し合いを通じて情報を的確に管理している。	お子様の細かな行動の変化を、皆でより丁寧に共有し合います。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		計画に具体策を明記し、家族との細やかな情報交換を通じて、家庭や学校と連携した手厚い支援を行っている。	ご家庭や学校との連携をさらに深め、将来への準備を支えます。		

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	多様なスタッフが意見を出し合い、食育や体験学習など幅広い視点を取り入れたプログラムを立案している。	皆様のニーズに寄り添い、より魅力的なプログラムを検討します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	児童に合わせた日替わりプログラムの考案や担当制の導入、新規企画への挑戦など、活動の充実を図っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13	学習用の個別スペース確保など、活動内容に応じて個別と集団を柔軟に使い分け、集中できる環境を作っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	支援開始前の打合せを徹底し、スタッフ間でその日の役割分担や支援内容の共通理解を深めて連携している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	その日の療育で改善できることやヒヤリハットを振り返り、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	支援記録の徹底やヒヤリハットの当日共有を行い、日々の振り返りを通じて支援内容の検証と改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	13	児童の下校後の状態に合わせ、スケジュールを柔軟に調整するなど、無理なくゆったり過ごせるよう配慮している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13	「はじめの会」等で本人の意見を聞き、複数の選択肢から自ら選べる機会を設けて自己決定を促している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	学校と直接話し合う機会を設け、下校時刻や支援内容の共有、連絡調整を適切に行うなど密に連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	LINEやTeams等のITツールを効果的に活用し、関係機関との円滑な情報共有と相互理解に努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13	相談支援事業所を中心に必要に応じて情報の提供をさせていただいている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	13	支援が難しいケースなどの場合には適切なサポートや助言を求めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	13	地域の公園や施設を積極的に活用し、イベント等を通じて地域の子どもたちと自然に交流できる場を作っている。	放課後児童クラブとの交流の機会については検討が必要。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13	自立支援協議会等の研修に参加し、得た情報や周知事項をスタッフ間で共有して地域連携を深めている。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	連絡帳や送迎時の対話、保護者会の場を活用して児童の状況を共有し、ニーズを捉えた支援に繋げている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	保護者会での情報共有に加え、ペアレントトレーニング等の研修機会を提供し家族の支援力向上を図っている。		

保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13			定期的な面談を実施し、児童や保護者の意向を丁寧に確認。意思を尊重した個別支援計画の作成に努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13			家族からの相談に連絡帳やメール等で随時対応し、必要な助言やサポートを丁寧に行う体制を整えている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	13			季節の行事と保護者会を同時開催し、多くの保護者が気軽に参加し交流できる場を効果的に設けている。	父母会や保護者会で出た意見・内容について、欠席した保護者にも適切に伝達・共有できる仕組みが必要。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13			事業所の通信（ぐっどふれんど）などで行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13			必要に応じてホワイトボードなどを活用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	1		カフェや流しそめんなどの企画を通して声がけしている。	事業所の行事に地域住民を招待する機会として、カフェ等のイベントへより多くの方を招く工夫や計画が必要。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13			マニュアル策定と周知に加え、定期的な避難・救出訓練を実施し、安全管理と緊急時対応の徹底を図っている。	安全マニュアルの内容を、皆でより深く理解し活用していけるよう努めます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13			自然災害と感染症でそれぞれBCPを策定し、定期的に研修と訓練を行っている。引き渡し訓練など、保護者の方にも参加していただいている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	12	1		保護者や支援者の方々と情報共有を通して、事前に把握しスタッフ間で共有しています。	より細やかな情報共有を徹底していけるよう努めます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13			安全計画を策定し、安全点検や子どもへの安全指導を研修し訓練している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13			安全対策や取り組んだ内容を会報などで周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13			電子的な連絡ツールでその日のうちに共有するよう努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13			事業所ごとの虐待防止研修や法人による虐待防止委員会を設置して適切な対応に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13			身体拘束適正化のための指針を設けてその対応方針について定めている。現在、身体拘束が必要な児童はいない。		